

議員行政



日時 令和4年11月15日～16日
 参加者 飯田 一、寺嶋 正、南雲まさ子、平野由里子、
 内田 晃、古谷星工人
 視察場所 長野県伊那市、塩尻市

塩尻地域新Maas・ 自動運転実証 プロジェクト

市民の移動手段として
 持続性の高い地域公共交
 通構築のために「交通手
 段をまとめて、より便利
 な移動手段を実現する」
 本プロジェクトを導入し、

拠点内移動のオンデマ
 ンド化と拠点間移動を自動
 化させ、双方をシームレ
 スに接続する「塩尻Ma
 as（マース）」として
 官民連携体制で運営する
 こととなった。

これまでの実証実験

① バス型自動運転車両
 自動運転技術の向上に
 資するデータの取得と自
 動運転車両に対する地域
 の社会需要性の向上等を
 目的に、塩尻市内の一般
 公道において高精度3次
 元実証実験を実施した。
 ② タクシー（乗用車）
 型自動運転車両
 自動運転技術の向上に
 資するデータの取得等を
 目的として、タクシー

（乗用車）型の自動運転
 車両を用いた走行実証実
 験を実施した。バス型自
 動運転の実験とは異なる
 ルートで走行するととも
 に、一部の路線では自動
 運転による実証実験も行
 った。

③ AI活用型オンデマ
 ンドバス

AI活用型オンデマン
 ドバス「のーと塩尻」
 は、利用者が乗りたい時
 にアプリや電話で呼べる
 新しい「乗合バスサービ
 ス。令和4年4月1日か
 ら「のーと塩尻」が本
 格運行へ移行すること
 となった。

（令和3年度有償実証運
 行の主な実績 総乗客数
 8883人、アプリ登録
 者2661人）

今後の実証運行の予定

持続可能な地域公共交
 通を実現するためのマス
 タープランとして、「塩
 尻市地域公共交通計画」
 を令和3年7月に策定し
 た。市街地ゾーンとその
 周辺の既存集落区域まで

の拠点間移動については
 鉄道および地域振興バス
 でスムーズな移動を確保
 し、市街化ゾーン内の移
 動は地域振興バスまたは
 オンデマンドバスでカバ
 ーし、生活利便施設への
 アクセス向上を目指して
 いる。

オンデマンドバスへの
 転換については、令和3
 年から7年にかけて中心
 市街地循環線、塩尻東線、
 みどり湖・東山線広丘駅
 循環線、塩尻北部線、片
 丘線の6路線について段
 階的に実証運行を行い、
 地域振興バス路線との代
 替が可能か否かを検証し
 ていく。

まとめ

民間の路線バスの減便、
 寄地区の住民の生活向上
 や移動手段の確保、観光
 などで松田町にお越しに
 なる方々の移動手段の確
 保など、移動に対する
 様々なニーズや重要性が
 高まっている。

（記 寺嶋 正）

伊那小学校の 特徴

通知表がない学校、総
 合学習に力を入れている
 学校として知られる。3
 年間クラス替えはなく、
 原則、担任も同じ。

中庭や校舎周りに、ポ
 ニー、豚、山羊、羊など
 の動物たちがいて小屋も
 ある。動物はクラスごと
 に飼っていて、何を飼う
 かは児童が決め、小屋も
 柵も子どもたちが作る。
 ベっこう飴、和菓や、
 豆腐、パン、ラーメンな
 ど食べ物系のテーマのク
 ラスもある。またウズラ
 や蚕といった小さな生き
 物を選んだクラスは教室
 で飼っている。パンがテ
 ーマのクラスの習字は
 「天然酵母」とか「発酵」
 とか書いてある。

支援級は畑で野菜を育
 っているが、普通級のテ
 ーマ活動と一緒に入る子
 も多く、自然にインクル
 ーシブ教育が成り立って
 いる。

（記 平野由里子）

教師はテーマに沿った
 活動が指導要領のどれに
 当たるのを見通しながら
 から学習計画を作る。活動
 では勉強しきれないこと
 は教科書を使う。教科書
 を使わなくても、指導要
 領を満たせば多様な学び
 は可能なのだ。

市内には小規模特認校
 やICTに力を入れる学
 校もあり、伊那市の移住
 施策は教育と連動してい
 る。プロモーション動画、
 SNSなど駆使して移住
 情報とともに教育情報も
 発信し、コロナ禍でもオ
 ンライン見学会などを実
 施している。

まとめ

多様な教育の一例とし
 て、貴重なものを視察さ
 せて頂いた。特色ある教
 育を目指していけば、選
 んで移り住む人も現れる
 と希望を感じることがで
 きた。

（記 平野由里子）

インクルーシブとは 支援教育の理念のもと、共生社会の実現に向け、すべての子どもが、できるだけ同じ場で共に
 学び共に育つことをめざす。（神奈川県HPより）